



養育院の思い出 ③ 昭和天皇の行幸

櫻園通信 43. 平成 29 年 4 月

東京都健康長寿医療センター

養育院・渋沢記念コーナー

連絡先: 老年学情報センター

久保田嘉一郎

養育院・渋沢記念コーナー維持ボランティア



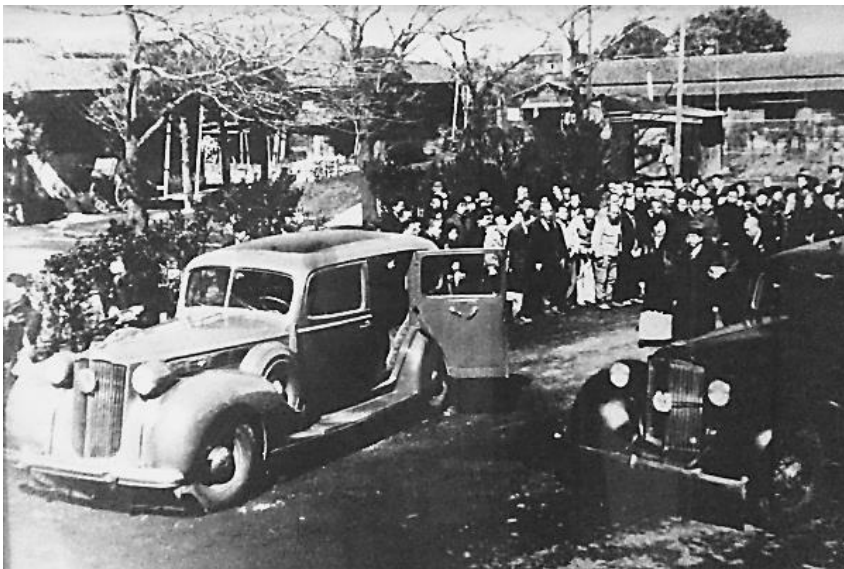
養育院で昭和天皇をお迎えする

現在の東京都健康長寿医療センターの二階には、「養育院・渋沢記念コーナー」があります。私は一枚の写真に注目しました。それは戦後すぐに行われた昭和天皇、皇后両陛下の養育院への行幸の写真です。母と私は、写真には写ってはいませんが、その場にいました。

私の記憶によれば、小学校低学年の時、母に連れられてと近所のおばさんたちと養育院を訪問される天皇陛下をお迎えしました。その日はいつかを知りたくていろいろ努力しました。国営昭和記念公園にある昭和天皇記念館にも行き調べました。戦後の全国巡幸の事は分かりましたが、養育院への行幸は判りませんでした。ところが、「昭和天皇実録」が完成して一般公開しているとの記事が新聞に報

じられました。一般公開は皇居東御苑のある宮内庁書陵部庁舎で行われていると聞き、早速出かけました。(平成二六年十月九日)

一時間位待つて、私の番になりました。閲覧室に入ると、長いテーブルに「昭和天皇実録」全六一巻が備えてあり、閲覧者は二名でした。そんなセットが四つ、計八八名が一時に閲覧出来ました。閲覧時間は四十分でした。私の目的は、昭和天皇の養



育院への行幸の日と内容を知ることです。簡単に分かりました。コピーや写真禁止ですが、書き写しました。

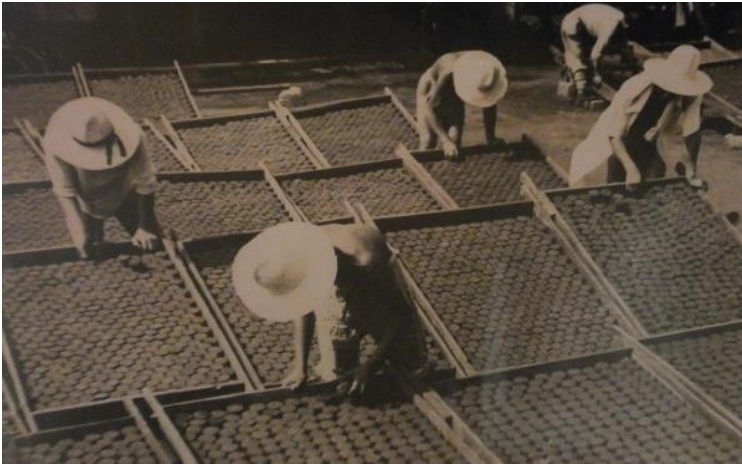
昭和二四年三月一日(火)東京都内社会事業施設の御視察の為、午前九時四十分皇后とともに御出門になり、初めに板橋区の東京都養育院を御訪問になる。院長事務取扱い磯村英一(東京都民生局長)より東京軍政部福祉課長キャロウの紹介を受けられ、キャロウに御握手とお言葉を賜う。○殿において磯村院



長事務取扱いの奏上をお聞きになる。終
わって高齢者収容施設である、明々寮及
び炭団工場を御視察になり、お言葉を賜
う。ついで豊島区の東京都中央児童相談
所に向かわれる。

(文中の○は急いでメモした為、判読で
きず。)

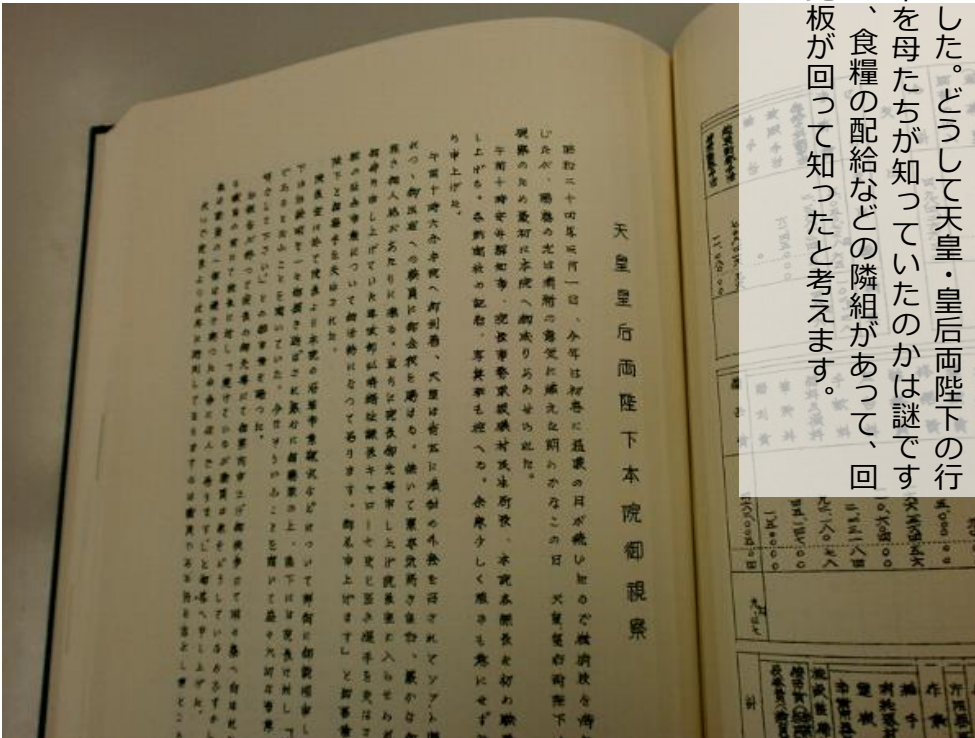
私が知りたいと思っていた月日が、昭
和二四年三月一日(火)と判明した。皇
居を九時四十分にお車で出発された天皇
皇后両陛下下の養育院到着は正午前と思わ
れる。平日の昼間に板六小三年生の私が
どうして養育院にいたのか、不思議に思
いますが、その頃は二部授業でした。急



養育院での炭団づくり

増する児童に教室が足りずに私の在学
中にも板九小、板十小、大山小が造られ
ています。

天皇、皇后両陛下も数人の侍従を連れ
られて、私たちの目の前を通られました
た。今ほど嚴重じゃなかったです。ほん
の一メートル先を、中折れ帽を手にして
両側に挨拶されて通られました。迎える
人もそう多くはなく、母は天皇、皇后両
陛下のお姿を見られて、大変感激してい
ました。どうして天皇・皇后両陛下の行
幸を母たちが知っていたのかは謎です
が、食糧の配給などの隣組があつて、回
覧板が回つて知つたと考えます。



天皇皇后両陛下本院御視察

天皇皇后両陛下本院御視察
東京都養育院月報 第448号
(昭和24年4月発行)
復刻版東京都養育院月報
第2巻 不二出版2016より

復刻版東京都養育院月報
【明治期全6巻】1-143号 1901-1913年
【大正期全12巻】144-305号 1913-1926年
【昭和期全12巻】306-425号 1927-1938年
【戦後編全12巻】426-586号 1946-1964年
は、当センター内の老年学情報センターで閲覧
することができます。



昭和天皇は明治三十四年(1901)四月
二九日生まれ、母は明治三十四年三月二三
日生まれです。この時は四八歳でした。

戦後、戦災孤児や海外からの引揚者も受け入れ、昭和21年度末の在籍者は2,272人に上っている。当時、GHQの占領政策で、ララ物質による援助が行われた。アメリカの福祉施設顧問団も度々が訪れている写真が残されている。

戦後、昭和天皇は全国を行脚したが、昭和24年3月1日には、板橋の養育院にも行幸された。利用者、従業員にも親しくお言葉をかけられた模様は、養育院月報に記載されている。当日、安井都知事、磯村民生局長、GHQ軍政部厚生福祉課長のキャロー女子らが、案内している。久保田氏の手記には板橋を訪れた昭和天皇の様子が書かれている。養育院を板橋の現地に再建するか否か、板橋区の行政当局と激しい論争が行われ、膠着状態に陥っていた。しかし、行幸の翌月、キャロー女史の鶴の一声で、再建に関する養育院と板橋区の論争は決着し、敷地の一部を区の学校や公園、文化施設に提供し、養育院の板橋再建が決まった。当時の福祉施設を巡る占領政策を含めての政治状況が興味深い。

(センター顧問医 稲松孝思)